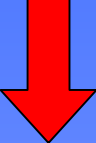


普及活動について

即日・中間覆土分科会

普及活動報告

- 上田技術委員長殿のプレゼンテーション
- 
- 第3回LS研・CS研サロン
 - 「廃棄物処分場の即日覆土、中間覆土、最終覆土」
 - 北海道大学大学院工学研究科 寄付講座
不法投棄対策工学講座
 - 第29回環境フロンティア研究会
 - 「最終処分場の各種覆土へのジオシンセティクス適用提案研究」

営業活動での各自治体の反応

- ごみ分別、リサイクル浸透により埋立量は減少傾向である。



営業活動での各自治体の反応

- 延命化は考えているが、これと言った案はない。
- こういう材料があることを初めて知った。
 - PR不足、各自治体への直接のPR必要(広告等)



営業活動での各自治体の反応

- 建設時の現地発生土、公共事業残土を受容れているので土砂覆土は変えられない。
- 重機走行時に対する懸念



営業活動での各自治体の反応

- 購入土による土砂覆土を行っているが、材料が高い。
 - トータルコストでの優位性を強調するが、現実には年度での予算が重要になり、土砂より高いと難しい。

	即日覆土代替材	土砂覆土 (20cm)	
		現地発生土	購入土
材料費 (円 / m ²)	500	0	440
工事費 (円 / m ²)	0	0	0
小 計	500	0	440
廃棄物受容れ量 増加分 (円 / m ²)	-4,000	0	0
合 計	-3,500	0	440

	試算価格 (円 / m ³)	20cm厚換算 (円 / m ²)
廃棄物処理費	20,000	4,000

使用材料	試算価格 (円 / m ³)	20cm厚換算 (円 / m ²)
現地発生土	0	0
購入土	2,200	440

営業活動での各自治体の反応

- 処分場建設時に住民協定等で埋立完了期間が定められているため、延命化は出来ない。
 - 覆土を厚くしても完了させる。
- 建設時の住民説明で土砂覆土を上げているので、稼動してからの変更は難しい。
 - 再度住民説明を行わなければならず大変、面倒くさい。



今後の活動

- 覆土工法に比べて価格が高くなる印象を持たれている。
- 土砂覆土より即日・中間覆土代替工法が受入容量が増加し、処分場運営の採算性向上になることを強調していく。



今後の活動

- 処分場建設時の住民説明等で、埋立期間や覆土工法が決まってしまうため、新規建設計画時に折込設計を行うことが必要。

**特別会員のコンサルタント会社の皆様
即日・中間覆土代替材の御採用の検討を
ぜひお願い致します。**

終